

副審 2 名制

1、全空連での採用基準

- ・全空連主催・主管の全国大会に繋がらない大会。
- ・対象は小学生・中学生・高校生までとする。
- ・審判を確保できる場合は通常のルールでおこなう。

2、ルールについて

(1) 基本的な考え方

- ①「役割」「権限」「責任」は通常ルールと同様。
- ②人数が少ないため、相互でサポートし合う。

(2) 審判パネル

①主審

- ・ウォーニングとペナルティ。
- ・1人の副審のサポートがあれば得点をとることができる。

②副審×2名

- ・得点。
- ・コンタクト、場外などのアシストをすることができる。

③監査

- ・通常と同様の役割。重要な役割。

(3) 得点とウォーニング・ペナルティ

①「やめ」をかけなければいけない時

- ・副審2名が同じ選手に、同じ得点またはウォーニングを示した。

→主審は「やめ」をかけて従う必要がある。

変更することは可能：得点→ウォーニング・ペナルティ／コンタクト→無防備／場外→プッシング

- ・副審が赤と青それぞれに得点を示した時。

→主審は「やめ」をかけて両方に得点を与えなければいけない。

※このケースはイレギュラーと考えると良い。

②「やめ」をかけなくてもよい時

- ・副審1名が得点またはウォーニングを示した。

→主審は同調しない場合「やめ」をかけずにスルーすることができる。

この場合は「やめ」をかけずに、その場で「とりません」のジェスチャーをするのみ。

しかし「やめ」をかけたら（かけてしまったら）…③

③「やめ」をかけた時

- ・副審1名でも得点またはウォーニングを示していたら。

→主審はそれに従う必要がある

変更することは可能：得点→ウォーニング・ペナルティ／コンタクト→無防備／場外→プッシング

④「やめ」をかけることができる時

- ・主審が得点、ウォーニングと判断した。（副審は示していない）

→「やめ」をかけて与えることができる。

得点は副審1名の同調が必要。

ウォーニング・ペナルティは主審の判断。（通常ルールと同様）

【主審主導の得点の与え方】

- ・主審は与えたい得点の促しを行う。(主審定位置にて)
- ・副審1名の同調を得る。
- ・通常通り得点を与える。

3、ルールブックの変更

WKF ルールは 2024 年 1 月 1 日から変更。

- ① 副審の注意・反則注意・反則のジェスチャー削除。
- ② P54-9

4、当日の質問

- ① 主審は得点を与えるためにやめをかけた。その後副審はコンタクトを出した。
 - コンタクトを与える。
 - ※主審が得点を与えるために「やめ」をかけて、副審に得点を促した。しかしそれに副審はコンタクトをした。
 - ~~主審のウォーニング・ペナルティの促しに関しては、合意するかしないため、副審はコンタクトを示すことはできない。監査は笛を吹く必要がある。~~
 - 主審の得点の促しに関しては、合意するかしないかのため、副審はコンタクトを示すことはできない。
監査は笛を吹く必要がある。
- ② 主審が得点を与えるために促した時に、副審はどのくらいのレベルで同調に応じるべきか。
(副審の旗の上げるスピード)
 - 特に取り決めはない。
- ③ 主審は1本だと思いやめをかけたが、副審は有効をだした。
 - ・その場合1本を促すことができるのか。
 - 促すことができる。
 - ・促して副審が同調しない場合
 - 得点は副審の権限のため、副審の有効となる。
 - ※もし副審2名のうち1人だけ同調した場合は1本にすることができる。(多数決)
- ④ 副審1 赤ウォーニング・副審2 青得点。
 - ・主審はスルーしたい場合、2回「とりません」のジェスチャーをするのか。
 - 1回でよい。
 - 補足:「とりません」のジェスチャーは必須ではない。周りがわかりやすくするために行う。
 - ・主審はウォーニングではない、しかし得点は与えたい。
主審は「とりません」のジェスチャーをすると両方下げた。
そこで「やめ」をかけて得点を促すことはできるのか。
 - 出来なくはないが、現実的ではない
 - ・主審はウォーニングではない、しかし得点は与えたい。
主審は「とりません」のジェスチャーをすると片方だけ下げた。(主審が同調しない方)
その時に「やめ」をかけた。「とりません」をすることができるのか。
 - できない。そのため主審の仕切りが重要となる。
- ⑤ 主審主導の得点の与え方手順で、「やめ」をかけずに促してから「やめ」をかけるのか、「やめ」をかけてから促すのか

→「やめ」をかけて定位置に戻ってから促す。

⑥ 副審1 青コンタクト・副審2 赤得点。

・「やめ」をかけたら両方与えなければいけないが、「やめ」の前に瞬間的に青に向かって「とりません」をして青のコンタクトが旗を下げた時に「やめ」をかけて赤の得点を与えることはできるのか。

→できるが、現実的に難しい。

・副審の青のコンタクトを「とりません」で取り消しし、その後「やめ」をかけて青の得点を促すことはできるか。

→できない。

⑦ 監査が笛を吹かなければいけない時。

→ルールブック通り。

・副審の旗が1本しかなく、主審がスルーした場合、監査は笛を吹くのか。

→吹かない。

⑧ 「やめ」をかけて得点を与えた後に、主審は相手にコンタクトを与えることができるか。

→できる。

⑨ 主審は赤の得点と思い「やめ」をかけた。それと同時に副審1が青のコンタクトをだした。

青のコンタクトは与えなければいけないが、赤の得点を促すことができるのか。

→できる。

オンラインより

① 主審がスルーできるケースについて再度説明希望

→1人の選手に副審1名だけが得点またはウォーニング・ペナルティを示した場合

② 主審がスルーする時、副審の方を向いて「とりません」のジェスチャーをするのか。

→特に取り決めはない。

③ 副審が示すことができるウォーニングの種類はコンタクトと場外のみか。

→コンタクトと場外のみ。

メールでのお問い合わせ（2024年11月20日）

①2024年11月20日問い合わせ

1.「サポートについて」

講習会の冒頭で「人数が少ないため審判員同士がサポートをしなければならない」というお話がございましたが、この点に関してもう少し具体的に確認させて下さい。

ア) 副審同士の旗サポートについて

冒頭で説明された「サポート」には、副審4人制で実施している副審同士のサポートも含まれるのでしょうか？

つまり、拳先が見えていなくても、位置的に一番よく見えている副審が旗を出した場合、他の副審も旗を出すというサポートです。

7月の講習会で個人的に講師に質問させていただいた際、副審同士で旗をサポートすることはないというご回答をいただきましたので、その点に変更がないのかどうか確認したかった次第です。

→副審同士で旗をサポートすることはありません。

各々の役割を見逃した際に、副審は場外とコンタクト、主審はスコアをサポートし合います。

イ) 副審の旗表示について

- ・場外の旗表示の後、以前やっていたように旗を立てて C2 表示のようなことはするのでしょうか？

→しません

- ・コンタクトの旗表示をする前に、以前やっていたように旗をクルクル回して主審に知らせるようなことはするのでしょうか？

→しません

2. 副審の得点旗表示に対して主審はウォーニングで打ち消すことができるという冒頭の説明について

ア) 副審 2 名がそれぞれ赤と青に得点旗表示をした場合

- ・7 月講習会⇒「やめをかけた後、主審は双方に得点を与えるか、またはコンタクトのウォーニングに変更することもできる」

- ・11 月講習会⇒「主審は必ずヤメをかけて両方取らなければならない」

強調されるニュアンスに若干の差異を感じましたが、これはウォーニングに変更できるということで変更はないのでしょうか？

→変更ありません

イ) 副審 1 が赤の得点、副審 2 が青のコンタクトを旗表示した場合

- ・7 月講習会⇒「主審はやめをかけて、副審の旗表示どおりに宣告するか、または双方にコンタクトのウォーニングを宣告できる」

- ・11 月講習会⇒「主審はやめをかけたらず両方取らなければならない」

これは、7 月講習会でご教示いただいたとおり、双方にコンタクトのウォーニングを宣告するケースもあるという理解でよろしいのでしょうか？

→そのとおりです

②2024 年 12 月 15 日

- ・判定の際、副審 2 名だけで旗を上げ、赤 1 票、青 1 票で分かれた場合のみ、主審の 1 票を含めて勝ちの宣告をするのでしょうか？それとも最初から主審及び副審の計 3 名が意思表示をするのでしょうか？

→判定の際は通常のルールと同じです。まずは副審 2 名で判定。同票の場合は主審の判定となります。

③2024 年 12 月 16 日

- ・資料 2 ページ 4.当日の質問①についてです。

主審は、得点を与えるために「やめ」をかけて、副審に得点を促した。

その場合に、副審は コンタクトを表示できるのか。

→おっしゃる通りです。

ルール上の原則として主審の促しに対して副審は「同意する」or「同意しない」の 2 つの選択肢のみとなっております。

※文言訂正した部分となります。

5、注意点

副審 2 名制は未完成のルールです。

今回の講習での内容は 2024 年 11 月 16 日時点のものであり、今後変更になる可能性があります。